

2015年度決算について（概括）

2015年度は、当初予算においては、定員確保を前提とした予算編成を行いました。結果として、大学においては、入学定員470名に対し340名、中学は入学定員225名（募集定員200名）に対し248名、幼稚園は収容定員200名に対し、210名となりました。

大学、特に国際教養学部における定員割れ（定員240名、入学者126名）による学納金、補助金等の減少は顕著であり、第一次補正予算においては、学納金等の補正を行うとともに、支出についても縮減を行いました。

このような状況から、大学将来計画委員会や財務改善検討委員会等において教務及び財務両面からの改善検討を行いました。今後は、これらのことを踏まえ、予算編成方法の見直しや財務改善方策の着実な実行等を行い、収支均衡のとれた安定的な学校運営を行っていく必要があります。

なお、2016年度入試に関しても、大学においては328名、中学は206名の入学、そして幼稚園は新たに77名の園児を迎え、収容定員200名に対し220名となっています。

以下2015年度決算について財務三表に沿って概括します。

1. - (1) 資金収支について

(1) 資金収入の部

法人全体では、資金収入合計3,362,818千円に前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計は4,353,189千円でした。大学の定員割れが影響し、学納金収入が当初予算に比べ△151,045千円、前年度決算と比較しても△104,398千円と大きな減収要因となっています。また、補助金収入は大学において経常費補助金は前年度比14,322千円（11.3%）の増となりました。これは、昨年度法人の管理運営体制に問題があるとの指摘から25%の減額措置が講じられましたが、それが解除されたことによるものです。一方で、学部定員未充足等による減額割合増大に加え、私立大学等改革総合支援事業の選定加算も昨年度と一昨年度の2年間、対象外となり、前々年度以前と比べるとかなり減少しています。

このほか、昨年度と比べ寄付自粛に伴う寄付金収入△10,670千円、退職手当資金収入などの雑収入△120,241千円、前受金収入△30,471千円、私立大学退職金財団交付金や補助金に係る前期末未収入金収入の減などその他収入△36,853千円等で、298,346千円の減収となりました。

なお、第二次補正予算と比較すると、学生生徒等納付金収入が19,959千円の増、また補助金収入が24,003千円の増となり、収入の部合計で48,986千円の増となっています。

(2) 資金支出の部

法人全体では、資金支出合計 3,346,273 千円となり、昨年度と比較すると△339,803 千円で、単年度資金収支差額は 16,545 千円となりました。

人件費につきましては、昨年度比△133,976 千円となりましたが、そのうち△149,275 千円は退職者数の減によって退職金支出が減ったことによるものであり、それ以外では昇給や大学教員の欠員補充などに伴い 15,298 千円の増となっています。教育研究経費支出につきましては、昨年度と比べ△68,652 千円で中高のSGH関連経費については増加したものの、それ以外は各校部において経費削減努力を図ってまいりました。特に、大学においては、消耗品等消耗関連の支出△18,366 千円、光熱費△9,450 千円、業務委託費△24,941 千円等ほぼすべての科目で、昨年度を下回っています。また、管理経費につきましても、△43,786 千円で、そのうち大学が△36,442 千円となっています。このほか、設備関係支出が△56,828 千円、資産運用支出が減価償却引当特定預金への繰入凍結により△49,499 千円となっています。

以上の結果から、翌年度繰越支払資金は当初予算より 16,545 千円増加し、1,006,916 千円となりました。

なお、第二次補正予算と比較すると、人件費支出が△18,208 千円、教育研究経費支出が△99,589 千円、管理経費支出が△27,009 千円等となり、翌年度繰越支払資金を除く単年度支出では、△170,889 千円と大幅な減額となりました。

1. - (2) 活動区分資金収支について

会計基準の改正により、新たに作成することになったもので、活動区分ごとの資金収支状況を表しており、教育活動資金収支差額は 324,727 千円、施設整備等活動資金収支は△85,029 千円となっています。その他の活動資金収支差額は△223,153 千円で、支出のうち借入金等返済支出が 206,380 千円、借入金等利息支出が 34,937 千円となっており、マイナスの要因はほぼ借入金の返済等によるものです。

2. 事業活動収支について

純資産の増減を通して学校法人の事業活動を表す消費収支計算書は、会計基準の改正に伴い、2015 年度から事業活動収支計算書へ変更されています。その目的は教育活動や教育活動以外の経常的な活動等の事業活動収入や事業活動支出の内容をわかりやすくするためです。また、基本金組入額を控除したすべての事業活動収入とその支出の均衡状態を明らかにするものです。

(1) 教育活動収支

教育活動収支は、当該会計年度の教育活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出です。

教育活動収入は、合計 3,214,914 千円で、第二次補正予算と比較して、36,471 千

円増加していますが、大学の一部学部の定員割れ等により、学納金や補助金等の収入が前年度と比較してマイナスとなり、厳しい決算となっています。

また、支出では、前年度と比較し、人件費が△104,103千円となっています。これは、退職者の減による退職関係支出△119,401千円によるところが大きく、人勸に伴う給与のベースアップは行っていませんが、事業活動収入計（旧帰属収支差額）に占める人件費の割合を表す人件費比率は、前年度決算64.6%を2.2ポイント上回り、66.8%となりました（前々年度60.8%）。減価償却額は、463,885千円で前年度528,123千円と比較して、△64,238千円となっています。他の収入、支出の内訳については、資金収支と重複しますので省略します。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収支は、当該会計年度の教育活動外である財務活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出です。

収入は、受取利息2,420千円、支出は借入金利息34,937千円で収支は△32,517千円となっています。

経常的な収支状況である経常収支差額（教育活動収支差額＋教育活動外収支差額）は、△187,147千円です。

(3) 特別収支

臨時的な収支を見るもので、収支差額は7,933千円ですが、収入8,415千円は日本私立学校振興・共済事業団からの借入に係る利子助成によるものです。

(4) 基本金組入前当年度収支差額（経常収支＋特別収支：旧帰属収支差額）

毎期の収支バランスを見るのに適したもので、今回会計基準の改正に伴い表示するものです。基本金組入余力がどの程度あるのかを表しており、前年度△208,710千円と比べ、マイナス幅はやや縮小していますが、△179,214千円で、4期連続のマイナスとなっています。

(5) 基本金組入額

学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入れであり、278,608千円を計上しています。過年度に整備した施設の借入金の返済による組入186,380千円や当年度中に行った設備工事による組入41,753千円、教育研究用機器備品の購入による増加14,931千円が主なものです。

(6) 当年度収支差額

基本金組入額を加えた当年度収支差額は、△457,822千円で、翌年度繰越収支差額は△9,253,667千円となりました。

3. 貸借対照表について

(1) 資産の部

① 固定資産

法人全体では、373,701千円減少しました。

[有形固定資産] 378,516 千円減少しました。

建物：大学ソフィア 1 号館空調・電気設備工事 42 百万円などにより 54 百万円の増加で、それ以外は減価償却による減少が 335 百万円で差引 281 百万円の減少となりました。

構築物：幼稚園北門外柵工事等 3 百万円、減価償却による減少が 34 百万円で差引 31 百万円の減少となりました。

教育研究用機器備品：中高サーバ、パソコン等購入に 17 百万円、廃棄・減価償却による減少 88 百万円で差引 71 百万円の減少となりました。

その他：図書購入による増加 10 百万円、中高トラック更新 1 百万円が主な内容となっています。

[特定資産]

第 3 号基本金引当特定資産が 810 千円増加しました。

[その他の固定資産]

4,004 千円増加しました。

主な内容は、給与・人事システムの導入です。

② 流動資産

法人全体では、27,289 千円減少しました。

現預金は 16,545 千円増加していますが、未収入金が 43,373 千円減少しました。

現預金増加の内容としては学納金、補助金の収入減に対し、人件費をはじめ各経費支出の抑制のほか、私大退職金財団交付金等の前年度未収入金収入 91,497 千円等によるものです。

③ 資産合計

①+② 400,991 千円減少しました。

(2) 負債の部

① 固定負債 214,161 千円減少

長期借入金返済による 206,380 千円の減少などが主な内容です。

② 流動負債 7,615 千円減少

大学入学者減等による前受金 30,471 千円の減や、預り金 21,961 千円の増等が主な要因です。

③ 負債合計

①+② 221,777 千円減少しました。

(3) 純資産の部

① 基本金 278,608 千円組入増加

[第 1 号基本金] 277,798 千円組入増加

固定資産取得増加や 2015 年度中に支払の借入返済および未払金支払に係る組入から除去に伴う基本金額を差引した額

[第3号基本金] 810千円組入増加

広瀬ハマコ基金他1万円単位で未使用残高の組入れ

② 繰越収支差額 457,822千円減少

[翌年度繰越収支差額]

資産合計 11,503,269千円— (負債合計 3,349,379千円+基本金合計 17,407,556千円) = Δ 9,253,667千円

以上の結果、借入金など負債は221,777千円減少しましたが、減価償却による固定資産の目減りなどにより正味財産は179,214千円減少しました。